

CSR REPORT 2008

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY
ETHICS COMPLIANCE
SAFETY HEALTH
ENVIRONMENT
QUALITY



CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY ETHICS COMPLIANCE SAFETY HEALTH ENVIRONMENT QUALITY 2008

CSR Report 2008

アオイネオンの企業理念

心、情報、光にカタチに

私たちが考えるサインの第一目的は「情報を的確に伝える」ということです。そのうえで「広告主様の心が伝わるサイン」をつくることを目標としています。私たちは、お客様の「心」、「情報」をメーカーとして「光」、「カタチ」にしていきます。ギリシャ語のNEOS（新しい）から命名されたネオンの名の下に新たな価値創造にチャレンジし、環境問題やコンプライアンスなどへも積極的に取り組み、社会との共生・調和を念頭に、お客様をはじめとする全てのステークホルダーの皆様の満足と信頼を得られる企業を目指しています。

企業概要

社名	アオイネオン株式会社
創業	昭和26年8月
設立	昭和32年1月
資本金	5,750万円
従業員数	82名（男子63名・女子19名）
代表取締役社長	横山 巖
工場	静岡工場 東京工場
静岡本社	〒422-8076 静岡市駿河区八幡2-11-11 TEL 054-282-1221
東京本社	〒146-0082 東京都大田区池上3-6-16 TEL 03-3754-2111
浜松支店	〒430-0929 浜松市中区中央3-7-1 1F TEL 053-489-5021
大阪支店	〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町4-3-5 3F TEL 06-6281-3621
業務内容	ネオン・広告塔・館内サイン 企画・設計・施工・検査診断

CSRレポート2008について

本レポートは、当社のCSR全般についての考え方や具体的な取り組みをステークホルダーの皆様によりわかりやすく開示するための報告書であり、2003年度に第1号を発行し、以後毎年度継続的に発行するものです。

■アオイネオンのCSRをご理解いただくために、CSRの考え方を明確に表現するとともに、出来る限り各項目ごとに方針（ポリシー）を記述し、取り組み事例を掲載しました。

■CSR活動をより具体的な形で開示するため、従業員のインタビューを掲載しました。

- ①対象読者
お客様、従業員、お取引先、株主、地域社会など、様々なステークホルダーの皆様。
- ②レポート対象範囲
アオイネオン(株)の全拠点（ただし、全項目について全事業所を網羅するわけではなく、テーマに基づいて代表的な事例を掲載しています。数値データにはそれぞれの対象範囲を記載しています）
- ③レポート対象期間
2007年度（2007年8月1日～2008年7月31日）とし、一部トピックスについては、それ以降の活動も掲載しています。
- ④発行時期
2008年12月（次回2009年12月予定）
- ⑤参考としたガイドライン
環境省「環境報告書ガイドライン」
環境省「環境会計ガイドライン」
GRI「持続可能性報告のガイドライン」
- ⑥WEBサイトへの掲載
アオイネオンホームページでも本レポートの全内容を掲載するなど、積極的に開示を行います。
<http://www.aoineon.com>



静岡本社・工場



浜松支店(ハーモニア新町1F)



東京本社・工場



大阪支店(本町サミットビル3F)

ステークホルダーの皆様からの声

「アオイネオンCSRレポート2007」は2007年12月に冊子及びホームページへの掲載で発行しました。冊子版はお客様をはじめ、協力業者様、従業員、ご請求いただいた方々を中心にお配りし、レポートへのご意見についてはアンケートを実施いたしました。ご回答を頂戴しました皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

いただいたご意見の一部を紹介します。

●社会貢献活動を通じた地域や社会とのコミュニケーションのとり方についてサインや看板の環境との関わりについて感心がもてました。

●大型看板の安全性パトロールは非常に大切な事業であるという印象を持ちました。見やすい看板やサインが増えることで、東京が住民にとっても、海外からの旅行者にとってもわかりやすい快適なまちになつたらいいと思います。

●イラストや写真等で説明しているのでわかりやすいと思いました。今後もイラストや写真を多く使い、文字だけだと見なくなるのでわかりやすい工夫をお願いします。

今回のアンケートでは、「安全パトロール」「違反広告物共同除去活動」への好意的なご意見が多かったことが印象に残りました。一方で「情報量が多すぎる」というご指摘もあり、2008年版では読みやすさを心がけながら掲載する情報を精査しました。

CSRレポート2008目次

トップメッセージ	3
企業理念とCSR	4
コンプライアンス	
社員一人ひとりに対するコンプライアンスの徹底	5
報告、相談への対応	5
コンプライアンス方針(倫理・法令順守)	6
社会性報告	
違法広告物共同除却活動への参加	7
小さな親切運動への参加	8
エコキャップ運動への参加	8
環境保全活動	
アオイネオン環境方針	9
ISO14001認証	9
主な環境影響と環境保全活動	10
CO ₂ 排出量推移・エネルギー別内訳	10
環境目標に対する実績	11
環境会計報告	12
品質マネジメント	
アオイネオンの品質方針	13
ISO9001認証	13
品質を守る仕組みづくり・人づくり	14
お客様の声を反映した製品開発	14
労働安全衛生活動	
安全衛生委員会の主な活動と組織体制	15
安全衛生委員会2007年度目標と結果	15
安全パトロール・緊急事態への対応	16
特集:事業活動を通じたCSR	17・18



自社の課題を社会に問いかけ、
要請に応える企業であること。

コンプライアンスに抵触する事件が、いまだ後を絶つことが無く社会における企業への不信感が高まっています。これらの本質的な課題は法令順守の精神はもとより、社会の関心や要請に誠実に対応できていないことです。

アオイネオンでは2004年に社内にCSR委員会を設置し、『社会の要請に応え続ける組織』を目指してきました。社会の課題に対しどのように責任を果たし、貢献できるかが『CSR』において求められていることだと考え、『ステークホルダーが重要だと考えていること』と『アオイネオンが重要だと考えていること』の2つの観点からマテリアリティ（重要性）を位置づけ、法令順守の徹底、環境・品質・労働安全活動、社会貢献を事業活動のプロセスに組み入れました。

また『自分たちでなければ解決できない課題』への取り組みとして、『看板ドクター』に注力しております。これは、看板製作者と広告主が社会への責任として果たすべき安心安全の確保を目的としています。（本レポートの「看板ドクター」をご参照ください。）

今後もアオイネオンが社会とともに持続的に成長する企業であるため、自社の活動に対する基準をより厳しくし、同時に広く開示していくことをお約束します。

このたび『CSRレポート2008』を発行し私たちが行った様々な活動を掲載しました。まだまだ未熟なものではありますが、皆様のご指摘やご指導をいただければ幸いに存じます。

代表取締役社長

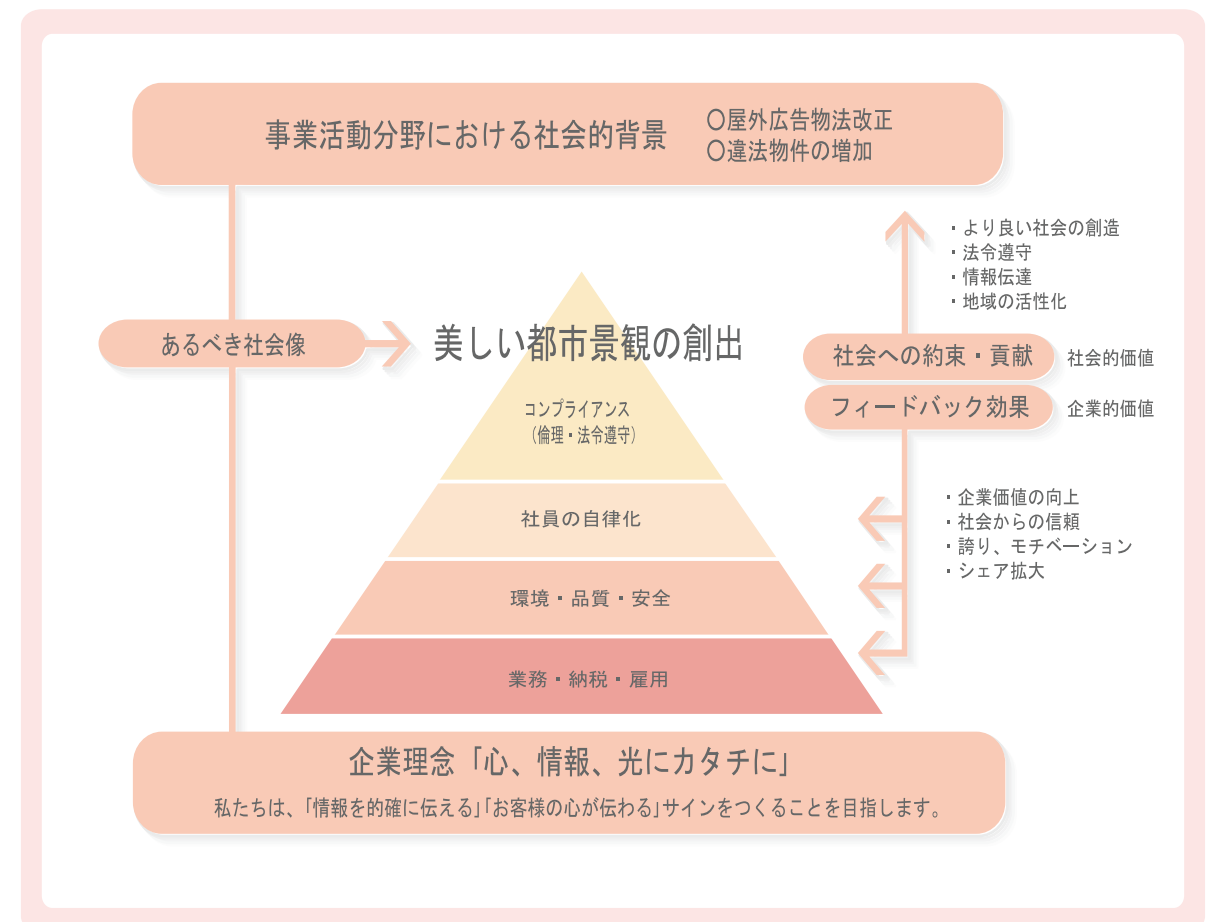
横山 巖

アオイネオンのCSR※の考え方

当社では、2004年8月にCSR委員会を社内に設置しました。企業理念に基づき「美しい都市景観の創出」の実現に向けて、CSR活動の核となるコンプライアンス(倫理法令遵守)体制の構築に着手し、役員・従業員の一人ひとりが企業市民として社会的良識をもって行動するための基本となるコンプライアンス方針及び行動規範を制定しました。「美しい都市景観の創出」は、アオイネオンの経営理念より導き出された事業活動分野における“あるべき社会像”であると同時に、屋外広告物法改正や違法物件の増加などの背景から社会が求めている姿でもあります。

CSR活動により当社は、社会的価値である、より良い社会創造・法令遵守・情報伝達・地域の活性化を約束し、社会から支持される「価値ある企業」を目指します。

アオイネオンのCSR活動領域及び企業理念と目指すべき姿との関係を以下の図に表しました。



※“Corporate Social Responsibility”の略で「企業の社会的責任」(企業が果たすべき社会的責任)と一般では訳される。

コンプライアンスを中心に据えたCSR経営を実践します。

コンプライアンスとは、法令や社内ルールの順守のことであり、製品の安全や個人情報の保護、公正な取引、就労などに関わる法律だけでなく、就業規則や経理手続きなど社内ですでに決めたルールも含まれます。コンプライアンスの実践には、役員・従業員一人ひとりがコンプライアンス意識を深めることが大切です。

当社では、お客様、お取引先、株主をはじめ社会のすべての人から信頼されるようコンプライアンスの徹底に向けた取り組みを行っています。

社員一人ひとりに対するコンプライアンスの徹底

当社では2005年に「コンプライアンス方針」を制定し公正かつ適切な経営を実現し、企業市民として社会的責任を果たすことに取り組んできました。

また、コンプライアンスの徹底には、一人ひとりが、自らの行動をコンプライアンスの観点から確認して、業務に取り組む必要があります。CSR委員会を中心に論議を重ね、行動規範を定めた「倫理綱領」を作成し全従業員に配布するとともに教育を実施し、CSR経営の重要性と、その土台となるコンプライアンス意識の浸透を図りました。

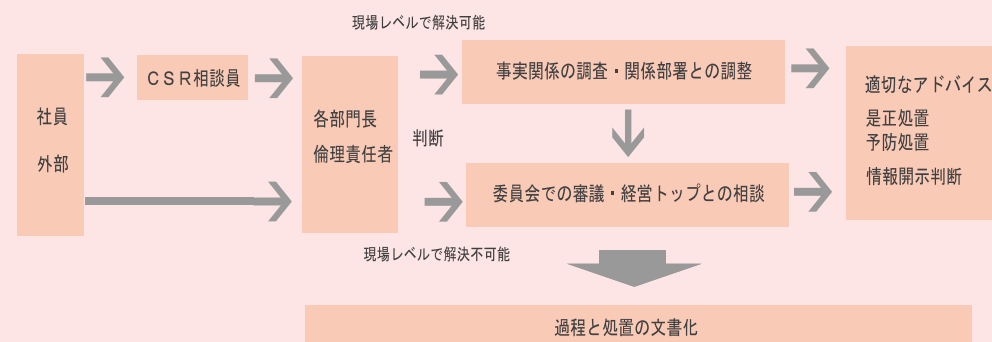


報告、相談への対応

倫理責任者、各部門長は、適宜、社員からの相談に応じ、適切なアドバイスを与える。

また、倫理綱領や各種法令遵守から逸脱する行為があるとの報告を受けた場合、以下により対応する。

〈対応手順〉



コンプライアンス方針(倫理・法令順守)

当社は企業活動を通じて公正かつ適切な経営を実現し、企業市民として社会的責任を果たします。そのために経営幹部であろうと一般職員であろうと、職位あるいは職務内容にかかわらずみな平等しく、誠心誠意をもって、業務に関連する法令・ルールを遵守し、より一層倫理的な組織を構築していくことに努めます。

〈コンプライアンス方針〉

1. 法令・ルールを守り、地域社会に貢献しよう

私たちは顧客、取引先、株主等を含む幅広い社会との健全で良好な関係を維持するとともに法令や社会的規範、社会的良識に基づいた企業活動を行い、地域社会発展の一翼を担います。

2. お客様に喜ばれる努力をしよう

私たちはお客様がサインに期待する情報伝達機能を確実に果たすとともに、お客様が安心して掲出を続けられる安全性、耐久性の確保を実現します。

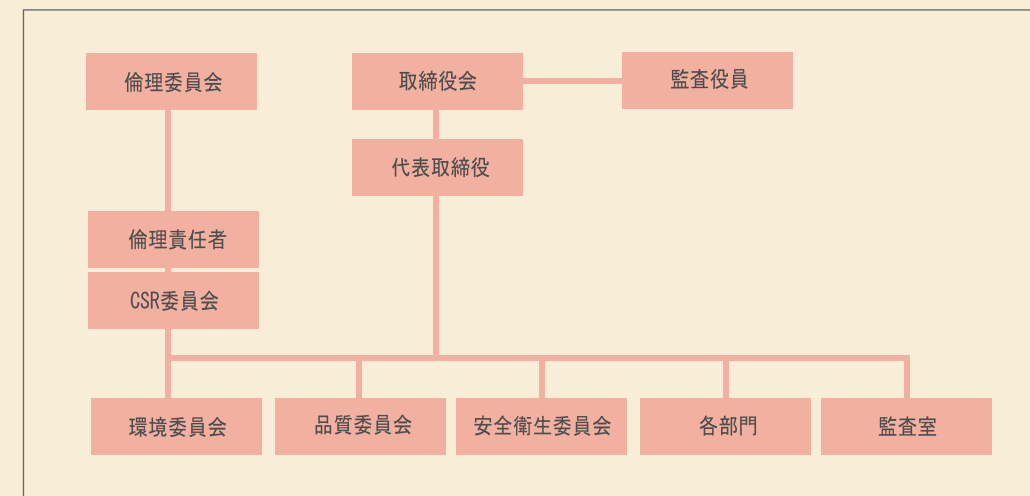
3. みんなで創ろう笑顔のある職場

私たちはすべての人々の人権を尊重します。また一人ひとりが互いに信頼できる健全な職場環境をつくりまします。

4. 一人ひとりの心がけ健康づくり安全作業

私たちは社員一人ひとりが心身ともに健康で、安全に働くことができる、事故や災害のない職場づくりを目指します。

〈社内体制〉



- 1、コンプライアンス委員会(倫理委員会): 倫理法令遵守に関する全社の方針の作成、マネジメントシステムの見直しなどを行う。事務局はCSR委員会内に置く。
- 2、コンプライアンス責任者(倫理責任者): 倫理方針の推進に取り組む最高責任者。
- 3、CSR委員会: コンプライアンス委員会の事務局を務め、倫理法令遵守に関する日常的な業務を行う。たとえば、方針の管理と改訂作業、状況に応じた計画の見直し、報告相談業務、社外とのコミュニケーション、実施状況の把握と報告。

良き企業市民として地域とともに 発展していきたい。

企業が消費者や社会から信頼される存在になるためには、ステークホルダーとのコミュニケーションは欠かすことができません。社会との協働により社会的な問題の解決や目的を実現するため、企業市民の意識を持って様々な活動に取り組んでいきます。

東京都平成20年度 違法広告物共同除却活動への参加

東京都が実施している違法広告物の除却活動に参加しました。本年も東京本社より大田区での活動に協力させていただきました。



10月9日 蒲田駅周辺



10月16日 雪ヶ谷大塚周辺

大阪市・路上違反簡易広告物撤去活動「かたづけたい活動」への参加

大阪支店では大阪屋外広告美術協同組合が主催する「かたづけたい活動」に参加しました。路上の違反簡易広告物(貼紙等)の撤去作業を実施しました。



10月28日 天満橋交差点付近

社員の声

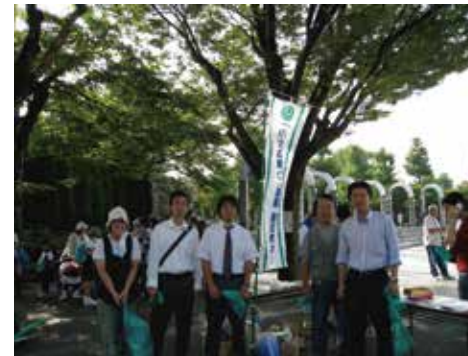
違法な広告がなくなり、美しい街に
大阪支店 営業部 岡島 功



この活動を通して、違法看板が街の景観を損ねている事を、改めて認識できました。街のいたるところに無造作に貼られている違法なはり紙は、剥がすのにすごく苦勞し大変な労力を使います。こういった活動を行う事で、違法広告が街からなくなることを心から願います。

平成20年度『小さな親切運動』への参加

毎年、「小さな親切運動」に参加しています。本年は静岡市の中心街のクリーン作戦に静岡本社から参加しました。



9月6日「小さな親切運動」



静岡市葵区 常磐公園

社員の声

『清掃活動』で地域に小さな恩返しが出来ました。

静岡本社 総務部 佐野 祐美



「小さな親切運動」で、静岡市の中心街を清掃する活動に参加させていただきました。いつも何気なく歩いている静岡の中心街ですが、「清掃活動」ということで街を歩いてみると、一見ゴミは落ちていないように見えます。しかし、植込みといった見えにくいところに意外にたくさんのゴミが落ちていることが分かりました。この「小さな親切運動」を通して普段お世話になっている街に小さな恩返しをさせていただくことで、社会に貢献していけたら、と思います。

『エコキャップ運動』への参加

「エコキャップ運動」に参加しています。ペットボトルのキャップを分別回収し再資源化することによりCO2の発生抑制に寄与できると同時に、キャップの売却益で世界の子供たちにワクチンを届けます。今回は6320個(ワクチン7.9人分)をNPO法人エコキャップ推進委員会に持ち込みました。



『きれいな環境を次世代に』 私たちの使命です。

今日の社会生活において私たちに課せられた最も重要なテーマのひとつは次世代そして遠い未来に向けて美しい地球環境を守り引き継いでいく事です。アオイネオンでは各事業所、各部門が目標を立て環境保全活動に取り組んでいます。

アオイネオンの環境方針

アオイネオンは2001年に「環境問題改善プロジェクト」をスタートさせ、「アオイネオン環境方針」のもと環境保全活動に着手しました。また2003年には国際環境規格ISO14001を全工場にて認証取得するなど、事業活動に伴い発生する様々な環境負荷の低減に向けた取り組みを進めてきました。現在は2005年に改訂された「全ての事業決定において環境に配慮する」という新たな方針のもとさらに積極的な取り組みを進めていきます。

アオイネオン 環境方針

基本方針

当社は屋内外における情報伝達メディアであるサインの製作にあたり、すべての事業決定において地球環境への配慮を実現し、社会的責任を果たすことを目指します。そのために環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防と環境パフォーマンスの向上に努めます。また、環境関連法令、その他の要求事項を遵守し、地域社会との強調に努めます。

特に下記項目を環境目的として取り組んでまいります。

1. 資源・エネルギーの節減
2. グリーン購入の推進
3. 産業廃棄物の削減

この方針は組織のために働くすべての人に周知し、広く一般に開示します。

2001年6月 策定 2005年8月 改定

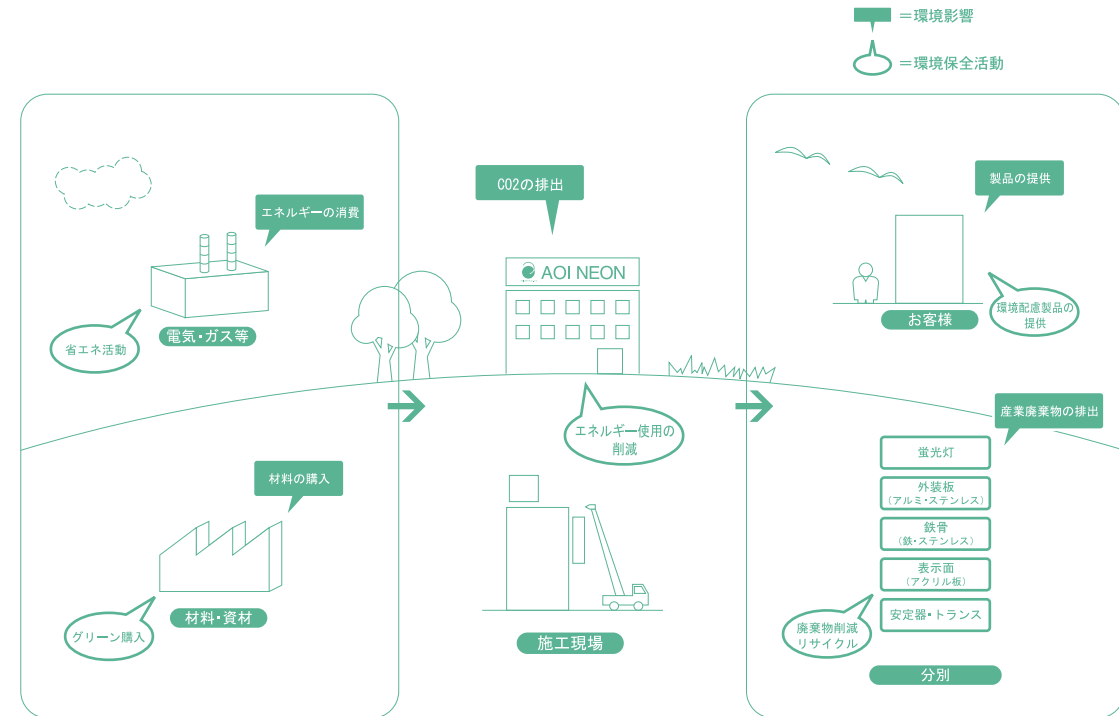
ISO14001認証(東京・静岡・浜松)

東京本社・工場、静岡本社・工場、浜松支店でISO14001の認証を取得しています。

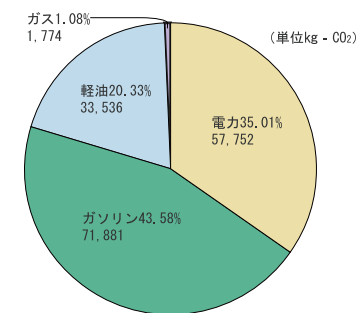


主な環境影響と環境保全活動

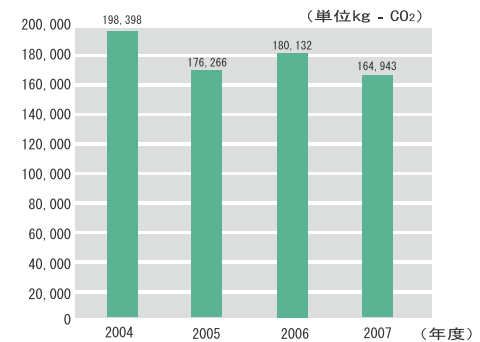
製品を製造しお客様に提供するまでに、資源やエネルギーの消費、産業廃棄物の発生やCO2の大气への排出など環境に負荷を与えています。私たちは事業活動にともなう環境への負荷を正しく認識し、持続可能な地球環境のために省エネ・省資源、廃棄物削減などの環境保全活動を推進していきます。



CO2排出量のエネルギー別内訳(2007年度)



CO2排出量推移



社員の声

様々な切り口でより効果的に

静岡本社 環境委員 大箸真也



全工場でISO14001を認証取得し今年で7年目になります。CO2排出量削減を軸として環境保全活動に取り組んで来ましたが、より効果的な活動をする為に様々な切り口で捉え、去年より今年、今年より来年と日々努力を積み重ねて行きたいと思っております。

2007年度 環境目標に対する実績

対象期間：2007年8月1日～2008年7月31日
対象サイト：静岡本社、東京本社、浜松支店

静岡本社

項目	基準年	目標値	実績値	評価	
産業廃棄物削減	産業廃棄物処分量 原単位2%削減 (産廃処分量/工事売上高100万円)	2006	0.082 m ³	0.094 m ³	×
資源・エネルギー 使用量の削減	CO ₂ 排出量の削減 (電気・ガソリン・軽油・ガス使用量)	2006	92.19 t-CO ₂	82.01 t-CO ₂	◎
グリーン購入の推進	ロングライフ蛍光灯の購入 (ロングライフランプ購入量/蛍光灯購入量)	2006	74.4 %	72.6 %	×
	汎用品でのグリーン購入 (グリーン購入量/汎用品購入量)	2006	32.5 %	27.6 %	×
法規制の遵守	環境法規制への対応		100%	100%	◎

東京本社

項目	基準年	目標値	実績値	評価	
産業廃棄物削減	産業廃棄物処分量 原単位2%削減 (産廃処分量/工事売上高100万円)	2006	0.099 m ³	0.073 m ³	◎
資源・エネルギー 使用量の削減	CO ₂ 排出量の削減 (電気・ガソリン・軽油・ガス使用量)	2006	57.37 t-CO ₂	53.40 t-CO ₂	◎
グリーン購入の推進	ロングライフ蛍光灯の購入 (ロングライフランプ購入量/蛍光灯購入量)	2006	50.0 %	60.3 %	◎
	汎用品でのグリーン購入 (グリーン購入量/汎用品購入量)	2006	58.0 %	39.3 %	×
法規制の遵守	環境法規制への対応		100%	100%	◎

浜松支店

項目	基準年	目標値	実績値	評価	
産業廃棄物削減	産業廃棄物処分量 原単位2%削減 (産廃処分量/工事売上高100万円)	2006	0.279 m ³	0.263 m ³	◎
資源・エネルギー 使用量の削減	CO ₂ 排出量の削減 (電気・ガソリン・軽油・ガス使用量)	2006	27.91 t-CO ₂	31.28 t-CO ₂	×
グリーン購入の推進	ロングライフ蛍光灯の購入 (ロングライフランプ購入量/蛍光灯購入量)	2006	65.0 %	69.8 %	◎
	汎用品でのグリーン購入 (グリーン購入量/汎用品購入量)	2006	35.0 %	29.0 %	×
法規制の遵守	環境法規制への対応		100%	100%	◎

2007年度 環境会計報告

アオイネオンでは環境会計を、環境経営の定量的指標のものさしとして捉え、2001年度から集計をはじめました。当社の環境会計はまだ発展途上であり、保全コスト効果の把握・集計にとどまっていますが、指標化・活性化を図り、環境経営に役立てています。

環境保全コスト

2007年度の環境保全コストは投資、費用合わせて2,697,296円を投入しました。

分類 (注1)	(円)		事例
	投資額(注2)	費用(注3)	
地球環境保全、公害防止コスト	0	120,000	浄化槽点検清掃、作業環境測定他
資源循環コスト	0	2,153,496	廃棄物処理委託、省資源
管理活動コスト	0	308,800	環境教育、廃棄物管理、保管庫、書籍他
社会活動コスト	0	115,000	地域貢献
環境損傷対応コスト	0	0	なし
合計	0	2,697,296	

(注1) 環境省「環境会計ガイドライン」における環境保全コストの分類

(注2) 投資額とは環境保全を目的とした設備投資

(注3) 費用には環境保全活動に費やした維持運営費等が含まれます。

対象期間：2007年8月1日～2008年7月31日
対象サイト：静岡本社、東京本社、浜松支店
参考書：環境省環境会計ガイドライン他

環境保全効果

効果についてはコストの投入により前年度より環境負荷がどれだけ改善されたかを捉えています。産業廃棄物に関して35.14m³の削減、事業所内使用電力量に関しては39989kwhの削減、燃料消費量に関しては11448ℓの削減を達成しました。経済効果としては-177,843円となりました。

内容	削減効果				経済効果	
	※1 2006年度	※2 2007年度	削減量	単位	内容	金額(円)
産業廃棄物の削減	169.4	134.26	35.14	m ³	分別による削減	351,400
事業所内使用電力量の削減	192772	152783	39989	kwh	節電による削減	679,813
燃料消費量の削減	55185	43737	11448	ℓ	エコドライブによる削減	1,488,240

※1 2007年度事業実績に換算した値

※2 2007年度実績

お客様から信頼される製品づくりを常に考えています。

多くのステークホルダーの満足を獲得し、当社の企業価値の向上を図っていくためには、当社が提供する製品やサービスの品質、性能の向上、適切な保守管理等を行っていくことが必須の条件であると考えています。品質保証を基本とする品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001を足がかりとし、競争力のある強い企業になるために目標に向かって邁進できる体制構築に注力しています。

アオインオンの品質方針

アオインオン 品質方針

『アオインオン株式会社の経営理念』
心、情報、光にカタチに

基本方針

1. お客様がサインに期待する情報伝達機能を確実に果たします。
2. お客様が安心して掲出を続けられる安全性、耐久性を確保します。

私たちは「製品の品質」に加え「顧客満足」を重要視した「組織の質」の向上を実現するために、絶えず改善を続けます。

品質目標

1. お客様満足度の向上
2. 高品質の製品づくり
3. 安全性と耐久性の確保
4. シェアの拡大

2001年8月 策定 2007年8月 改定

ISO9001認証(東京・静岡・浜松)

当社は、2007年10月23日に全工場でのISO9001の認証を取得しました。



品質を守る仕組みづくり

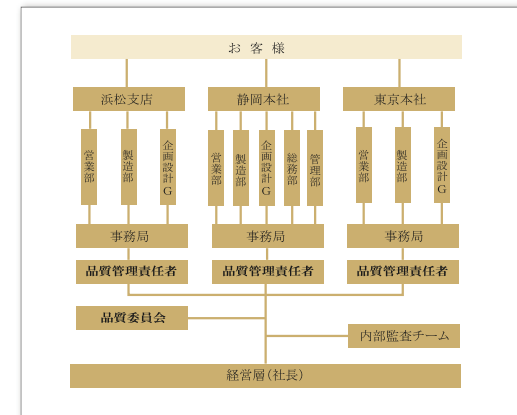
お客様に安全な製品を提供していくためには、製品の品質を管理するための仕組みの整備が不可欠です。当社では創業以来、独自の品質管理の仕組みを構築してきました。その仕組みをさらに強化するために2007年には品質管理システムの国際規格であるISO9001の認証を取得しました。また、外部審査機関による監査や社内の専門の担当者が各事業所の品質管理状態を確認する品質監査を毎年実施しています。この品質監査の機会を通じて、各事業所における品質改善事例の水平展開をおこない、全社を通じた品質の向上につながっています。



外部審査機関による審査

品質を守る人づくり

どんなシステムやルールも、それを支える人がいてはじめて成り立ちます。しっかりと知識や技能を備えた人がいてこそ「製品の質」は守られると当社では考えています。当社では担当者への専門教育、部署ごとの勉強会や外部機関への講習参加といった取り組みを推進してきました。また、各事業所、各部門ごとに品質目標を定め各事業所の品質管理責任者が積極的にその活動の支援をおこなっています。



組織体制

お客様の声を反映した製品開発に取り組んでいます。

お客様からのご意見やご要望、現場での「こんなことが出来れば」という意見や品質改善の提案を開発会議で出し合い製品や仕組みに反映しています。開発室を中心に、各事業所・部門の代表者が集まり、お客様の声に応える製品を開発していきます。



開発会議

社員の声

組織としての成熟度をより高めていきます。

品質管理責任者(執行役員 東京本部長) 菅野栄一



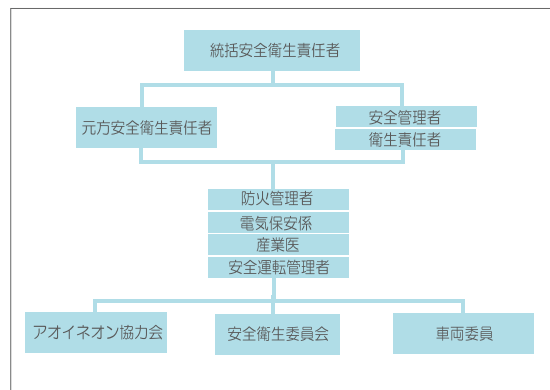
2007年より品質マネジメントの基本方針である

1. お客様がサインに期待する情報伝達機能を確実に果たすこと
 2. お客様が安心して掲出を続けられる安全性、耐久性の確保を柱に取り組んで来ました。安全性に関しては看板ドクターなど、新しいシステムの構築に取り組みお客様から評価を得て実績を積み重ねています。
- また今後の課題としては、過去の事例など、経験や技術の伝承も織り込んだ具体的な社員教育を進めることにより、サービス価値向上に向けたご提案やより安定した製品の品質管理に向けて活動していきます。今後さらに組織としての成熟度をより高めていく計画を推進しております。

安心して働ける環境づくり

人の安全と健康は何事にも代える事の出来ない価値です。特に、厳しい環境下にある建設現場等の職場を擁する当社にとって、安全で健康的な職場環境の確保は、大きな社会的責任であると考えています。当社は災害ゼロを目指して、安全確保に向けた組織的な取り組みを進めています。

安全衛生委員会の主な活動と組織体制



安全衛生委員会	毎月1回
安全パトロール	毎月1回
KYミーティング	現場作業開始前
産業医工場巡視	毎月1回
アオイネオン協力会	年1回

安全衛生委員会 2007年度目標と結果

当社における労働災害は、長年にわたる安全活動のなかで低減してきています。継続的な改善を目指すため、安全衛生目標を設定し、当該目標において一定期間に達成すべき到達点を明らかにし目標達成の度合いを客観的に評価できるようにしています。

	2007年度目標	施策	2007年度実績
交通事故	<ul style="list-style-type: none"> ● 重大な事故発生件数0件 ● 軽微な事故発生件数7件以下 	<ul style="list-style-type: none"> ● 過去3年間に事故を起こした社員を対象に教育を実施する ● 事故発生後、委員会で原因を究明、対策を検討、実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重大な事故発生件数0件 ● 軽微な事故発生件数7件
物損・労働災害	<ul style="list-style-type: none"> ● 重大な事故発生件数0件 ● 軽微な事故発生件数6件以下 	<ul style="list-style-type: none"> ● 過去3年間に事故を起こした社員を対象に教育を実施する ● 事故発生後、委員会で原因を究明、対策を検討、実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重大な事故発生件数0件 ● 軽微な事故発生件数2件

対象:全拠点 期間:2007年8月1日~2008年7月31日

安全パトロール

月に一度、作業現場の安全パトロールを実施しています。現場での法令順守、安全対策等を委員が確認します。パトロールで不安全行動を指摘し、今後の安全対策に役立てます。



▲作業開始前のミーティングで危険予知



▲作業場所の安全対策を確認

緊急事態への対応

火災や大規模地震などの緊急事態が発生した場合に備え、防災体制を定め運用しています。定期的な防災訓練を実施し、緊急事態発生時に人的安全の確保及び円滑な防災活動を行えるように体制を整えています。



世代や経験の壁を超えて情報を共有しています。

静岡本社 製造部



部門内でのミーティングを継続的に実施し、部門全体の安全レベル向上に努めています。現場担当者が集まり、自分の現場で起こった不安全行動や品質改善事例を共有しています。世代や経験の壁を超えて安全行動を伝承し、相互指摘ができる組織を目標としています。

社会の要請に応える「製品」「サービス」を開発し提供します。

看板診断システム「看板ドクター」

社会からの要請に応え続けることが、事業活動を通じたCSRだと考えています。「安心」「安全」のニーズの高まりに対応し、老朽化による看板落下等の事故を未然に防ぐ「看板ドクター」に注力しています。このサービスでは、看板の検査・診断と平行して関連法令もチェックいたします。近年、建築基準法や屋外広告物法が見直され看板に対するコンプライアンスが注目されており、お客様が安心して看板を掲出していただくための重要な要素です。



執行役員
静岡本部長 益谷 健

専門教育を受けた検査員がお伺いします。

お客様の看板を検査するために、専門教育を受けた検査員がお伺いします。立地条件や経過年数などを考慮し最適な検査方法をご提案します。



法令に関するチェックを怠りません。

建築基準法、消防法に基づく各所申請状況や都道府県、市が定める条例の確認を実施します。私たちはプロとして遵法での改修方法をご提案する義務があると考えています。

<p>看板の高さは大丈夫ですか？</p> <p>看板の高さが4mを超えた場合は「工作物確認申請」による構造の審査が必要です。（建築基準法第85条）より</p>	<p>防火地域の規制をご存知ですか？</p> <p>防火地域内にある看板、広告等で、建築物の屋上に設けるもの、又は高さ3mを超えるものは、主要部分を不燃材料で造るか、又は不燃材料で覆わなければなりません。（建築基準法第66条）より</p>	<p>看板の色合い・大きさは大丈夫ですか？</p> <p>都道府県で定められた「屋外広告物条例」・「都市景観条例」によって、届出が必要な場合があります。地域によっては、色合い・大きさなどが制限されます。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※該当する法令の一部を掲載しています。

外観からは想像できない 看板内部の劣化状況も見逃しません。

看板ドクターでは、内視ビデオ付き診断スコープを使用しわずかな隙間から看板内部の状況を把握できます。撮影した画像は診断結果と一緒にお客様にご提出します。



袖看板内部鉄骨



屋上広告塔下端鉄骨



野立看板ベースプレート

内視鏡カメラにより確認された腐蝕状況



袖看板内部鉄骨



ブラケット内部鉄骨



アンカーボルト

お客様の負担を減らし、短時間で検査できるよう 新しい技術の開発を続けていきます。

検査システム「アンカードクター」は当社で研究、開発、試験を重ねて特許を取得したアンカーボルトの引抜き耐力試験です。看板を外さずことなく検査が実施でき費用の面、時間的な面でもお客様の負担を軽減します。私たちは看板ドクターを「安心・安全」を一層高度に実現できるシステムへと磨きあげていきます。

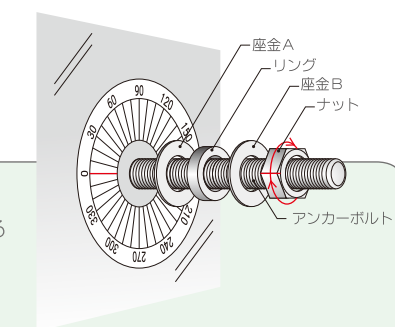


看板を取り外さずにアンカーボルトの引抜き耐力試験を行う事ができます。



特殊検査リングでアンカーボルトの引抜き耐力試験を行います。

特許 第3779722号 商標登録 第503991号



アンカードクターとは

既存アンカーボルトに金属製の特殊検査リングを装着、締付けることで発生する塑性ひずみを測定することでボルト引抜き耐力を確認するシステムです。
◎ほとんどの場合、看板を外さずにアンカーボルト引抜き耐力を確認できます。
◎試験結果の証拠が残ります。

社団法人 日本非破壊検査協会 会員



心、情報、光にカタチに

<http://www.aoineon.com>



アオイネオン株式会社

一級建築士事務所 特定建設業許可（国土交通大臣）

ISO14001:2004（東京・静岡・浜松） ISO9001:2000（東京・静岡・浜松） 認証取得